頭蓋内胚細胞腫における(1)bifocal tumor の意義、(2)髄液細胞診陽性症例の治療についての後方視的研究

対象者）1990 年1 月から 2015 年 12 月まで滋賀医科大学脳神経外科で初期治療を行った症例

研究協力のお願い

当科では「頭蓋内胚細胞腫における(1)bifocal tumor の意義、(2)髄液細胞診陽性症例の治療についての後方視的研究」という研究を行います。この研究は、1990 年 1 月から 2015 年 12 月まで当施設で初期治療が行われた症例の臨床情報を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示などによるお知らせをもってご同意を頂いたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、研究対象者の方で研究計画書等の資料を閲覧希望がある場合、また研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(１)研究の概要について

研究課題名：頭蓋内胚細胞腫における(1)bifocal tumor の意義、(2)髄液細胞診陽性症例の治療についての後方視的研究

研究期間：(倫理委員会承認後 2019年 5 月 9 日)～2024 年 1 月末

研究代表者：埼玉医科大学国際医療センター　脳脊髄腫瘍科　教授　西川亮

研究総括施設：東北大学大学院 神経外科学分野 実施代表者 冨永悌二・金森政之

当院実施責任者：滋賀医科大学 脳神経外科学講座 講師 深見忠輝

(２)研究の意義、目的について

頭蓋内胚細胞腫は東アジアに頻度が高く、欧米においてはかなり稀な疾患であり、その特異な病態から注目度が高いです。組織診断を行わずに低侵襲的な診断方法を用いて治療を開始することは患者さんのメリットも多く、また髄液診断で放射線治療範囲を決定することができればさらにそのメリットが大きいため、今までの治療成績をまとめることにより今後の治療成績あるいは患者のメリットを高めることができると考えます。その考えのもとに先行研究により全国で症例を集積し、さらなる症例検討が必要と判断し、前回の先行研究に引き続き、追加研究を行うに至った次第であります。

(３) 研究の方法について

本研究では 1990 年 1 月から 2015 年 12 月まで当院で初期治療が行われた症例を遡って対象とし、診療録の情報、採血結果、過去に撮像した MRI 所見、生検術・摘出術で得られた腫瘍組織検体および髄液細胞診の病理診断の結果を対象として、統合解析を行います。本研究は多施設共同研究であり、得られた情報は研究総括施設 実施代表者である東北大学大学院 神経外科学分野 金森政之准教授がすべての施設からの情報を統合して解析を行うこととなっております。上記情報を電子媒体として実施代表機関に提供し、金森先生が個人情報管理者となっております。

(4)予測される結果（利益・不利益）について

参加頂いた場合の利益・不利益はありません。

(５)個人情報保護について

研究にあたっては、個人を容易に同定できる情報は削除したり関わりのない記述等に置き換えたりして使用します。また、研究を学会や論文などで発表する時にも、個人を特定できないようにして公表します。

(６)研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌およびデータベースなどで公表します。

(７)問い合わせ等の連絡先

滋賀医科大学　脳神経外科学講座　講師　深見忠輝

住所：520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号： 077-548-2257

メールアドレス： tadateru@belle.shiga-med.ac.jp